

2019年の世界を読み解く

マタ 1 : 18~25

イントロダクション

1. 今、2019年という時点に立って、クリスマスの意味を再評価してみよう。

2. アウトライン

(1) 2019年の情景

(2) 2019年のクリスマス

2019年という時点に立って、クリスマスの意味を再評価する。

I. 2019年の情景

1. ベルリンの壁崩壊から 30 年

(1) 1989年11月9日 ベルリンの壁が崩壊した。

①私は、このニュースをエルサレムのホテルのテレビで観た。

*世界は激変すると感じた。

②12月3日 マルタ会談で、米ソ両首脳が冷戦の終結を宣言した。

③民主主義、資本主義の勝利と言われた。

④「新世界秩序」(ゴルバチョフ書記長とブッシュ大統領)

(2) この30年で、世界は予想外の方向に動いた。

①移民・難民の排除、英国のEU離脱、自国第一主義などの新しい壁

②冷戦に勝利した西側に驕りがあった。

*ロシアを無視したNATO(北大西洋条約機構)の東欧諸国への拡大

*東ドイツの市民を「二級市民」扱った。

③現在ロシアは、東欧の民主主義諸国を攪乱し、自らの影響下に置こうとしている。

④中国もロシアと連携し、民主主義的秩序を壊そうとしている。

*中国のGDP(国内総生産)は、ロシアの約8倍に上る。

(3) 一般のメディアが余り報じない情報

①1990年代、旧ソビエト連邦から100万人以上のユダヤ人が帰還した。

②これは、不信仰な状態での帰還である(エゼ20:33~38)。

2. 米国と中国の対立

(1) 冷戦終結の必然的結果として、「グローバリゼーション」が広がった。

①ITを中心としたテクノロジーの発展が、この動きを推進した。

*1990年代のインターネットの発展

*2000年代のAIの発展

②米国と中国に富が集中した。

③格差の拡大

*1割の人が世界の富の8割以上を占めるようになった。

④各地で、移民・難民が急増し、移民排斥運動が世界に広がっている。

⑤国際協調主義が後退し、独裁的な手法を取る指導者が増えた。

⑥日本は、依然としてぬるま湯に浸かったような状態にある。

(2) 米国は羅針盤を失った船のようである。

①米国の外交政策は、世界でリーダーシップを取る時代と、孤立主義の時代が、交互にやって来る。

②「銃かバターか」という議論

③経済格差の進展により、「バター」を求める声が大きくなっている。

④その声に応えるための「米国第一主義」である。

*これは、孤立主義の復活である。

*トランプ米大統領だけでなく、米国民全体の問題である。

(3) 中国は、中華思想の復活を目指している。

①中国は、東南アジア、南太平洋、中央アジア、中・東欧、アフリカなどに支援外交を展開している。

②中国の国家資本主義は、民主主義の優越性に疑問符を投げかけている。

③中国のビジネスモデルに魅力を感じる指導者は、多くいる。

④米国は自国よりGDPが大きくなる可能性のある相手と初めて対峙する。

⑤民主主義の維持、発展のために、課題は多い。

*貪欲資本主義の修正

*貪欲の罪という人類全体の問題が根底にある。

(4) 世界秩序は、米中の友好関係だけで維持されるような単純なものではない。

①気候変動問題

②北朝鮮問題

③イスラム過激派問題

*『イスラム教の論理』 飯山陽 新潮新書

*イスラム教の本音、インターネットとIS(イスラム国)の関係

3. アフリカの台頭

- (1) 技術革新の時代に生きる後発の利
 - ①規正が少ないので、後発国として技術革新を最大限に生かせる。
 - ②中国だけでなく、日本もアフリカとの関わりを深めている。
 - ③第7回アフリカ開発会議（TICAD）が8月に横浜市で開かれた。
 - *援助から投資中心へ転換した。

- (2) 「後の者が先になる」(マタ 20 : 16)

4. 地球温暖化

- (1) 過去10年間の平均気温は、過去最高となるのは確実である。
 - ①異常気象による熱波、洪水、干ばつ、ウイルスによる感染症の広がり
 - ②2020年にスタートするパリ協定は、産業革命前からの気温上昇を2度未満、できれば1.5度に押さえることを目標としている。
 - ③CO₂の排出量は、中国がトップ、次に米国
 - *米国は、パリ協定からの離脱手続きを始めている。
 - ④石炭火力発電所を建設し続ける日本への風当たりは厳しい。
 - ⑤COP25は、不十分な内容で終わった。

- (2) 希望を感じる情報
 - ①スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさん(16)
 - ②国連の「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)
 - ③日経新聞社は、「SDGs経営調査」を投資判断に加える動きを開始した。
 - ④ESG投資の拡大(Environment、Social、Governance)
 - ⑤GDPから新国富指標へ
 - ⑥大気の可視化(地球規模の大気の質をピンポイントで測る)

- (3) 聖書の視点
 - ①被造世界の管理(創1章)
 - ②被造世界のうめき(ロマ8 : 19~22)

5. 新天皇の即位

- (1) 憲法議論のない天皇の代替わりであった。
 - ①象徴天皇性とは何か。
 - ②国民主権や政教分離の原則との関係はどうか。
 - ③各即位儀式を従来通りの方法で繰り返すことの正当性はどうか。

④大嘗祭を国費で行うことは許されるのか。

(2) 雑感

①天皇家に対する親しみと、天皇制が必要かどうかは、無関係である。

*天皇制が政治利用される可能性は常に存在する。

②明治天皇、大正天皇、昭和天皇、平成の天皇

*作られたイメージと実像の間に乖離がある。

(3) 天皇制は、クリスチャンにとって悩ましい問題である。

①クリスチャンは、この世の権威に従うように命じられている。

②しかし、この世の権威が神の権威に従わない場合は、どうしたらよいのか。

③天皇制が政治利用されないように監視する必要がある。

6. ラグビー・ワールドカップ

(1) 今年の流行語大賞 「ONE TEAM」

①外国人選手が、チームの中核にいる。

②ワンチームの内容

*多国籍のメンバー

*個性を生かしたプレー

*パスをつなぐという利他的行為

*「ノーサイド」の精神

③現代企業が必要としている概念である。

④令和の天皇と皇后が、皇室外交の新しい形を作る可能性がある。

(2) 教会は、究極的な「ONE TEAM」である。

①多様性と一致 (1 コリ 12 章)

②クリスチャン新聞 (11/24)

*「九州宣教フォーラム 2019」での竿代照夫氏の講演

*「教職・信徒の宣教協力」

*「プロ・アマ」意識の克服を

*役割の違いはあっても、上下関係はない。

7. ローマ教皇来日

(1) ローマ教皇フランシスコは、政治的指導者たちに、危機意識を喚起させた。

①核廃絶

②「贅沢で便利な生活」から「控え目でつましい生き方」への転換

- ③団結と協力の重要性
- ④日本の政治家たちの反応は、影が薄かった。

(2) プロテスタントのクリスチャンのとまどい

- ①人類が共通して抱える罪の問題への言及がなかった。
- ②キリストの福音の伝達がなかった。
- ③カトリック教会が抱える問題（セクハラ被害者 10 万人、処分者 1 万人）
- ④エキュメニカル運動への疑問

8. AI 時代

(1) AI 時代を生き抜くために何が必要か。

- ①「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」（新井紀子著 東洋経済）2018/2/2
- ②「AI に負けない子どもを育てる」（新井紀子著 東洋経済）2019/9/6
- ③単純な日本語が理解できない小中学生が予想外に多い。
- ④OECD 学力調査では日本は読解力で前回の 8 位から 15 位に。
- ⑤AI にできないスキルを身に付ける必要がある。

(2) 「聖書研究から日本の霊的覚醒（目覚め）が」

- ①教会がカルト化していく危険性を阻止する。

9. 5G 時代

(1) 5G とは第 5 世代移動通信システムのことである。

- ①日本では 2020 年からサービス開始
- ②4G（第 4 世代移動通信システム）の 100 倍の「高速・大容量」
- ③断絶的技術革新ではなく、4G の延長線上にある。

*IoT が飛躍的に広がる。

- ④米国と中国の覇権争いが激化している（一人勝ちの危険性）。

(2) 技術そのものは善でも悪でもない。

- ①それをどう利用するかは、私たちの責任である。
- ②伝えるべき真理や本質は変わらない。
- ③デジタル技術+バイオ技術=世界支配（反キリスト登場のシナリオ）

10. 終末時代

(1) 第 10 回再臨待望聖会

- ①10 年前よりも状況は緊迫している。

(2) 終末時代の兆候

- ①外からの迫害、内からの教理的逸脱
- ②今年、NAR 問題に関して苦慮した。
- ③来年は、ネット空間に日本語で読めるサイトを構築するつもりである。

II. 2019年のクリスマス (マタ 1:18~25)

1. 18~19 節

Mat 1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。

Mat 1:19 夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。

(1) ヨセフの生活の情景

- ①覇権国ローマの支配
- ②ガリラヤという辺境の地
- ③大工という慎ましい生活
- ④マリアとの婚約

*2人だけで時間を過ごしたことはない。

*親から、信仰深い、知的な乙女だと聞かされている。

(2) 絶望的な知らせ

- ①婚約者の妊娠
- ②内面の葛藤

*申 22:23~27 に従って、マリアを法廷でさらし者にする。

*証人2人の前で離婚状を与え、内密に去らせる。

2. 20~21 節

Mat 1:20 彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。」

Mat 1:21 マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

(1) 天使が、夢に現れた。

- ①マリアは、聖霊によって身ごもった。
- ②イエスとは、「主は救う」という意味である。

3. 22～23 節

Mat 1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。

Mat 1:23 「見よ、処女が身ごもっている。／そして男の子を産む。／その名はインマヌエルと呼ばれる。」／それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

(1) イザ 7：14 の預言の成就

- ①その名はインマヌエルと呼ばれる。
- ②それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

(2) イエスは「インマヌエル」という名で呼ばれたわけではない。

- ①その人格と生涯を通して、「神が私たちとともにおられる」ことを示した。
- ②旧約時代に神殿に宿ったシャカイナグローリーは、イエスの内に宿った。

4. 24～25 節

Mat 1:24 ヨセフは眠りから覚めると主の使いが命じたとおりにし、自分の妻を迎え入れたが、

Mat 1:25 子を産むまでは彼女を知ることはなかった。そして、その子の名をイエスとつけた。

(1) 青年ヨセフは、ワンチームのために、ボールを次の世代にパスしたのである。

- ①2019年のクリスマスのキーワードは、「インマヌエル」である。
- ②私たちの使命は、次世代にボールをパスすることである。

まとめ

- (1) 神は、私たちとともにおられる。
- (2) 神は、私たちのことを見ておられる。
- (3) 神は、「ワンチーム」のために私たちを用いてくださる。
- (4) 神は、あらゆる問題よりも大きな方である。